

第29回 高輪築堤調査・保存等検討委員会【部会①】

日時：2023年3月15日（水）

部会① 11:00～12:00（予定）

場所：オンライン

次 第

【部会①】

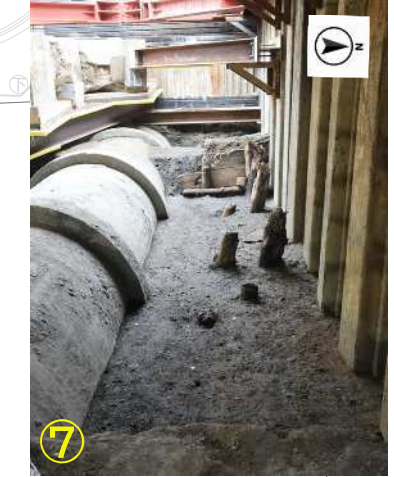
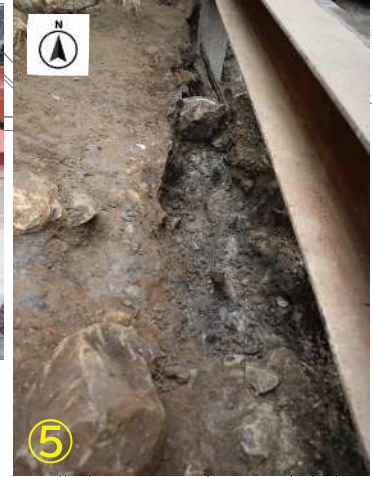
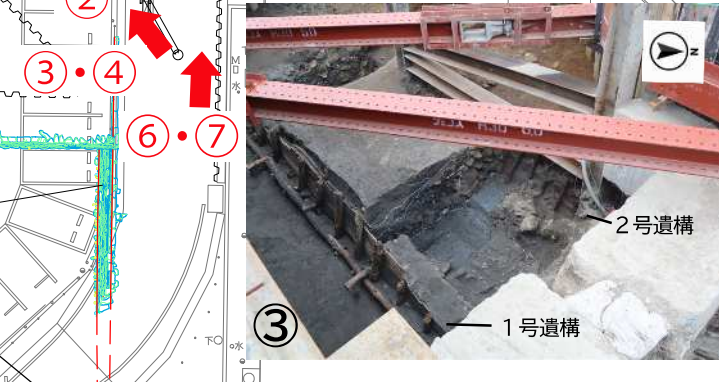
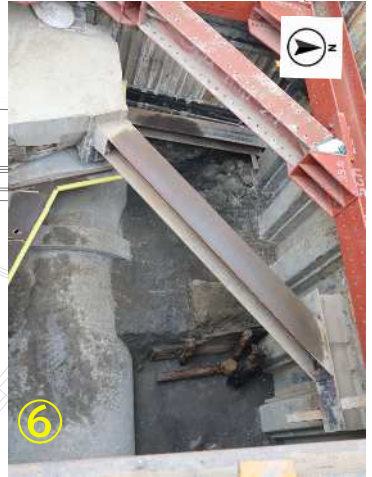
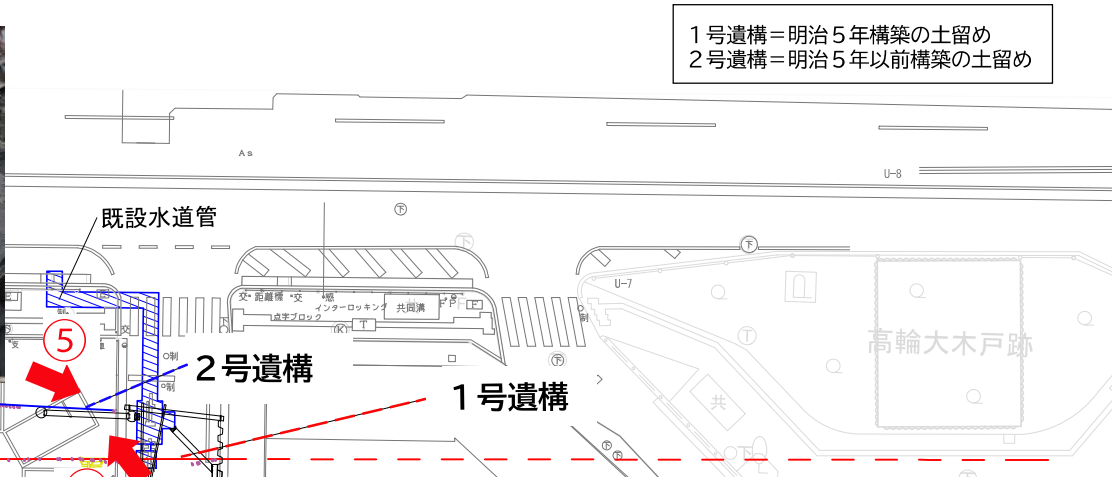
- (1) 開会
- (2) 調査概要 【資料1】
- (3) 泉岳寺駅改良事業における護岸遺構の出土について 【資料2】
- (4) その他
- (5) 閉会

※ なお、資料のなかで個人に関する情報や事業の関係等で非公開である情報については、一部表現を修正しています。その他、写真・図について一部訂正や出典等の加筆・修正をしています。

泉岳寺駅改良工事に伴う埋蔵文化財調査について S=1/400 (※A4印刷時)



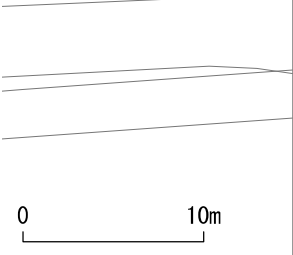
① 1・2号遺構検出状況1



② 1・2号遺構間裁ち割り状況 (南壁)



- ③ 1・2号遺構検出状況2
- ④ 1号遺構検出状況
- ⑤ 横梁下土留め杭検出状況
- ⑥ 調査区北1号遺構検出状況1
- ⑦ 調査区北1号遺構検出状況2



1号遺構=明治5年構築の土留め
2号遺構=明治5年以前構築の土留め

泉岳寺駅改良事業における護岸遺構の出土について

(保護措置の検討)

令和5年3月15日

東京都交通局 建設工務部

§ 1. 護岸遺構と下水幹線との位置関係

北横仕切堤本調査において、江戸期護岸を取り外した際に設置した明治5年修築土留板柵が南北方向で連続的に出土した。その後、土留板柵から国道側に約2.8mの位置に、新たに土留板・杭が部分的に出土した(令和5年2月27日)。

本調査は下水幹線切替のために設置した土留め内で実施しており、図-1、図-2及び写真-1に、出土した護岸遺構と新設する下水幹線との位置関係を示す。

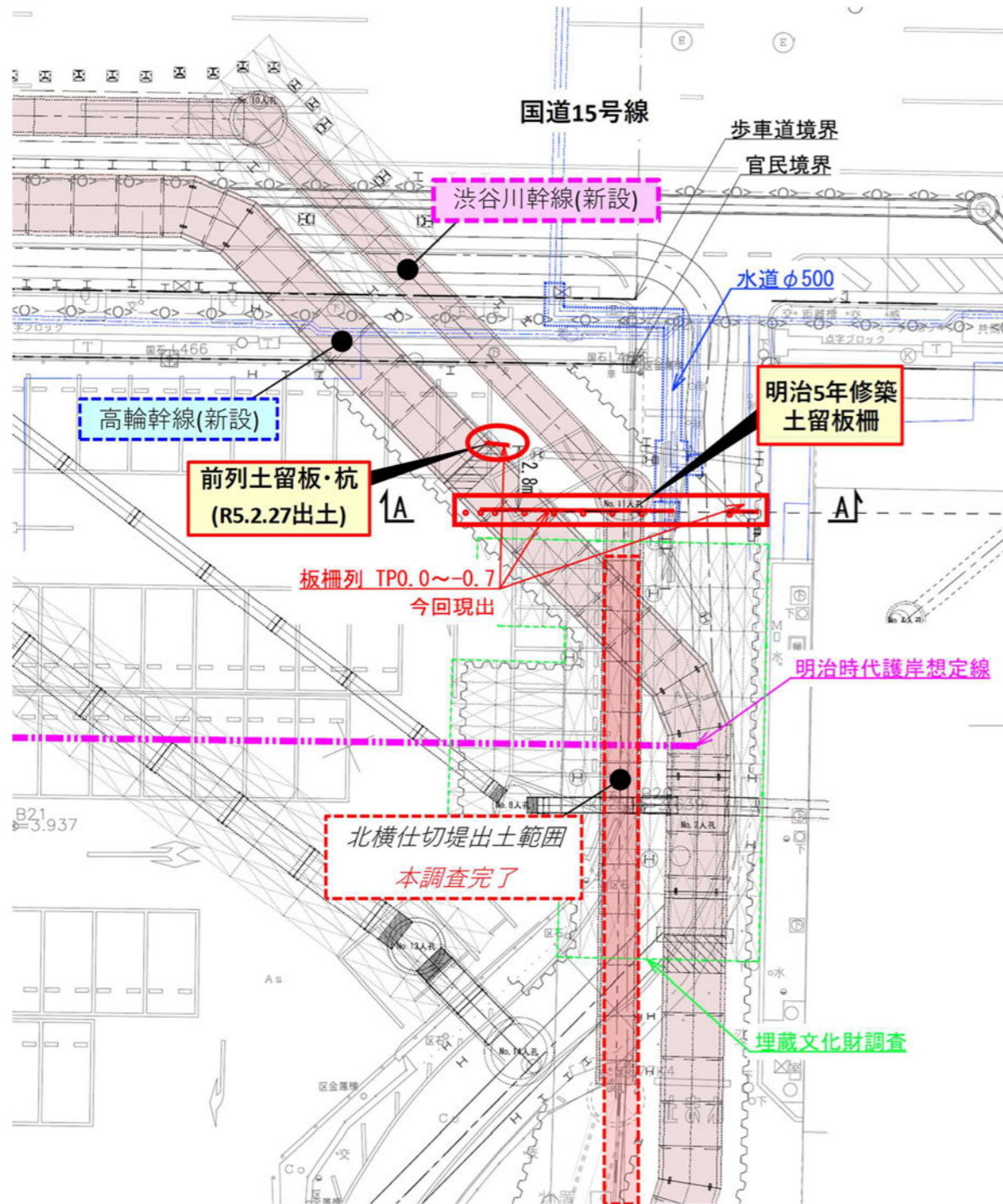


図-1 護岸遺構と下水幹線との位置関係(平面図)

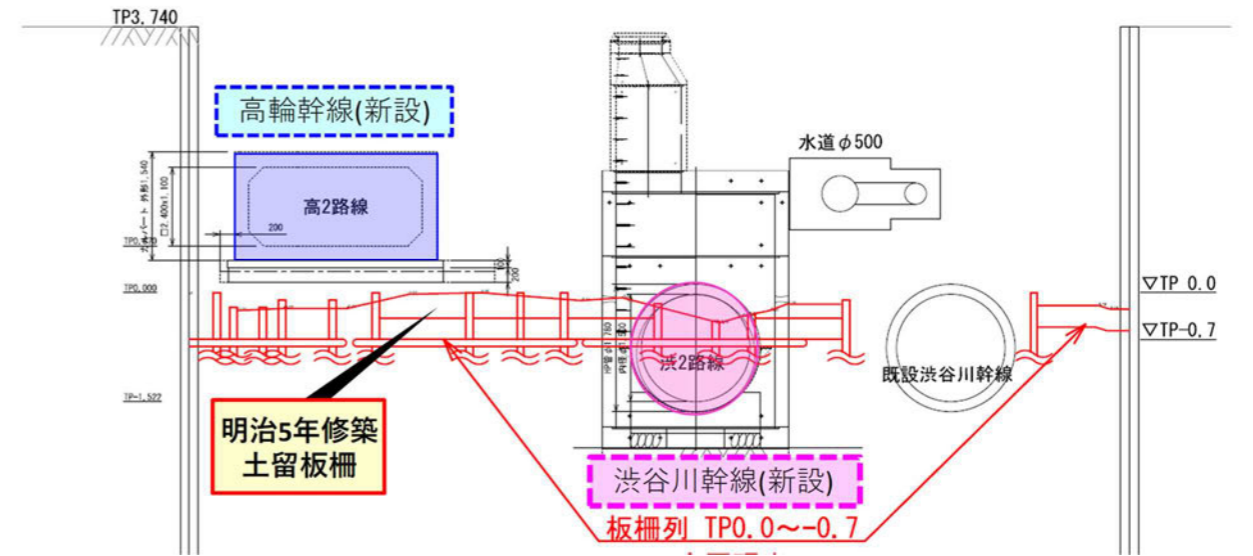


図-2 護岸遺構と下水幹線との位置関係(断面図)



写真-1 国道側護岸遺構の出土状況

- ①明治5年修築土留板柵と前列土留板・杭は新設する高輪幹線及び渋谷川幹線と平面的に干渉している。
- ②渋谷川幹線と明治5年修築土留板柵は断面的に干渉し、高輪幹線の直下にも土留板柵が位置しており施工時に支障となる。
- ③既設渋谷川幹線位置の明治5年修築土留板柵は、施工時に撤去されている。

§ 2. 護岸遺構における保護措置の検討

1. 下水幹線について

第15回調査・保存等検討委員会(令和4年3月15日)の会議資料を図-3に示す。高輪幹線、渋谷川幹線は種々のルート選定条件を満たす限られたスペースに計画されており、現状の**下水幹線ルートの変更は不可能である**。

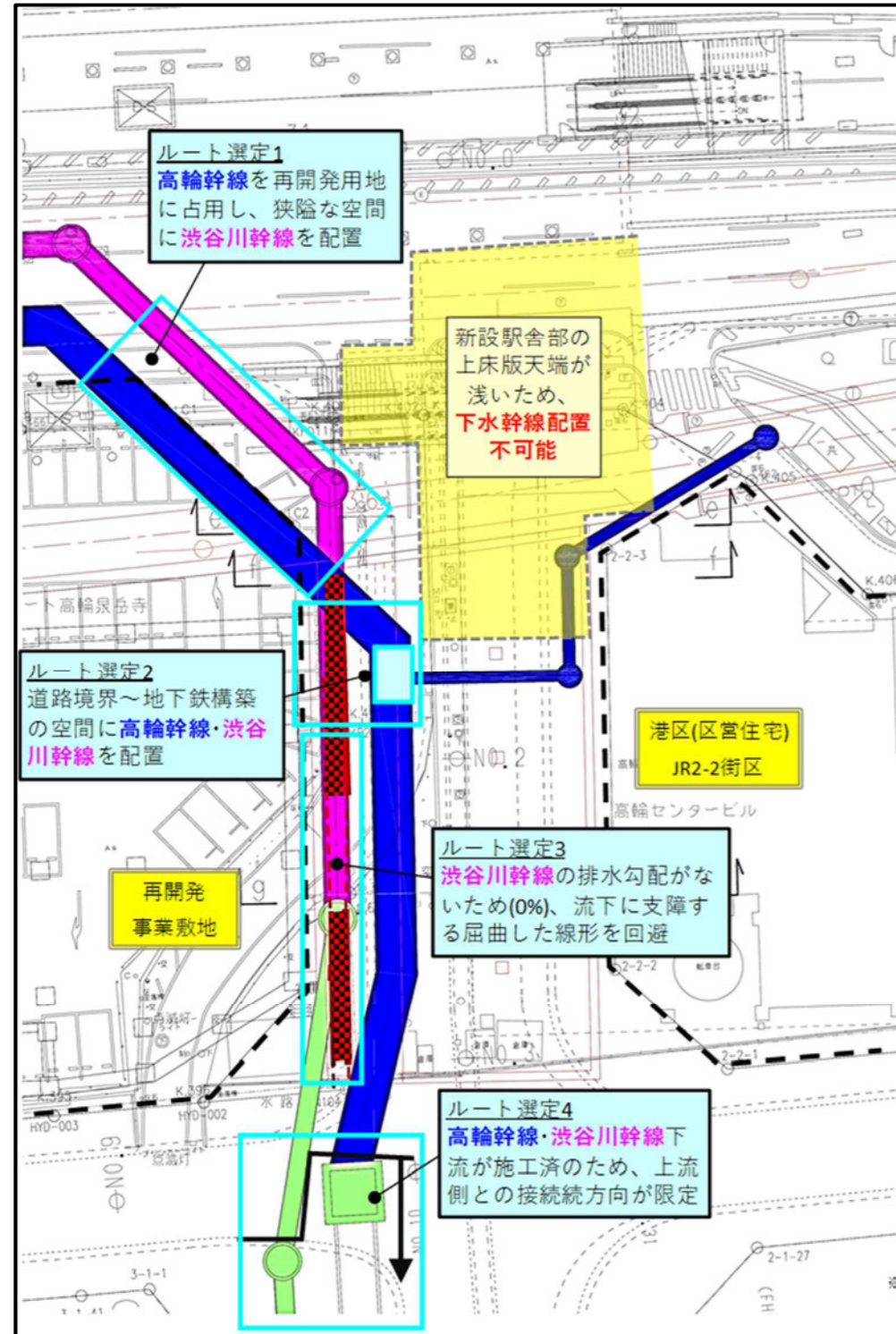


図-3 泉岳寺駅改良事業下水幹線ルート選定根拠図

※「泉岳寺駅改良事業における北横仕切堤の出土について」(第15回調査・保存等検討委員会; 2022.3.15)より抜粋

2. 地下鉄施設について

第13回調査・保存等検討委員会(令和4年1月17日)の会議資料を図-4に示す。

本事業は、①慢性的なホーム混雑の発生、②周辺の大規模開発に伴う将来的な乗降客数の大幅な増加により、泉岳寺駅の抜本的な改良が急務となり、**ホーム幅員を現状の5mから10mに拡幅**する必要が生じたため、都施行の第二種再開発事業と一体的に空間整備を行い、駅空間の拡張が実現した。

今回の**護岸遺構出土範囲は駅拡幅範囲に含まれる**が、**ホーム拡幅は本事業を成立させるうえで不可欠**であり、拡幅時には**土留め内を開削工法で掘削した後に新設する地下鉄構造物を構築**ことになる(図-5)。

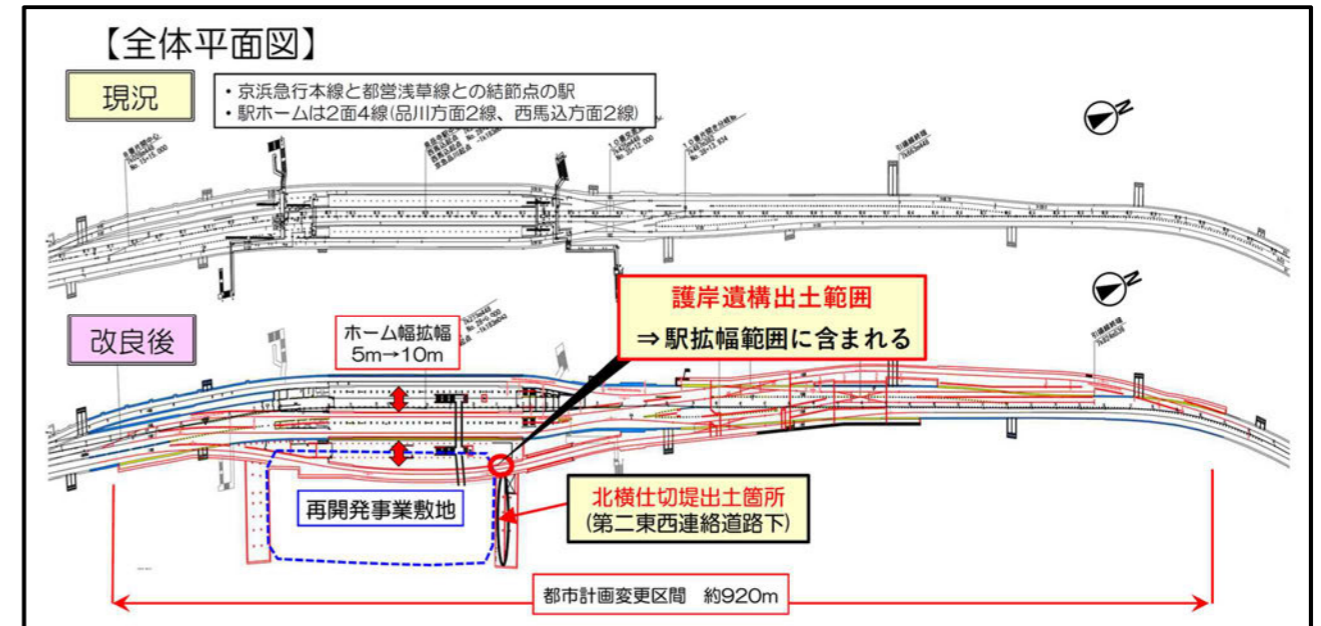


図-4 泉岳寺駅改良事業概要図(一部加筆)

※「泉岳寺駅改良事業における北横仕切堤の出土について」(第13回調査・保存等検討委員会; 2022.1.17)より抜粋

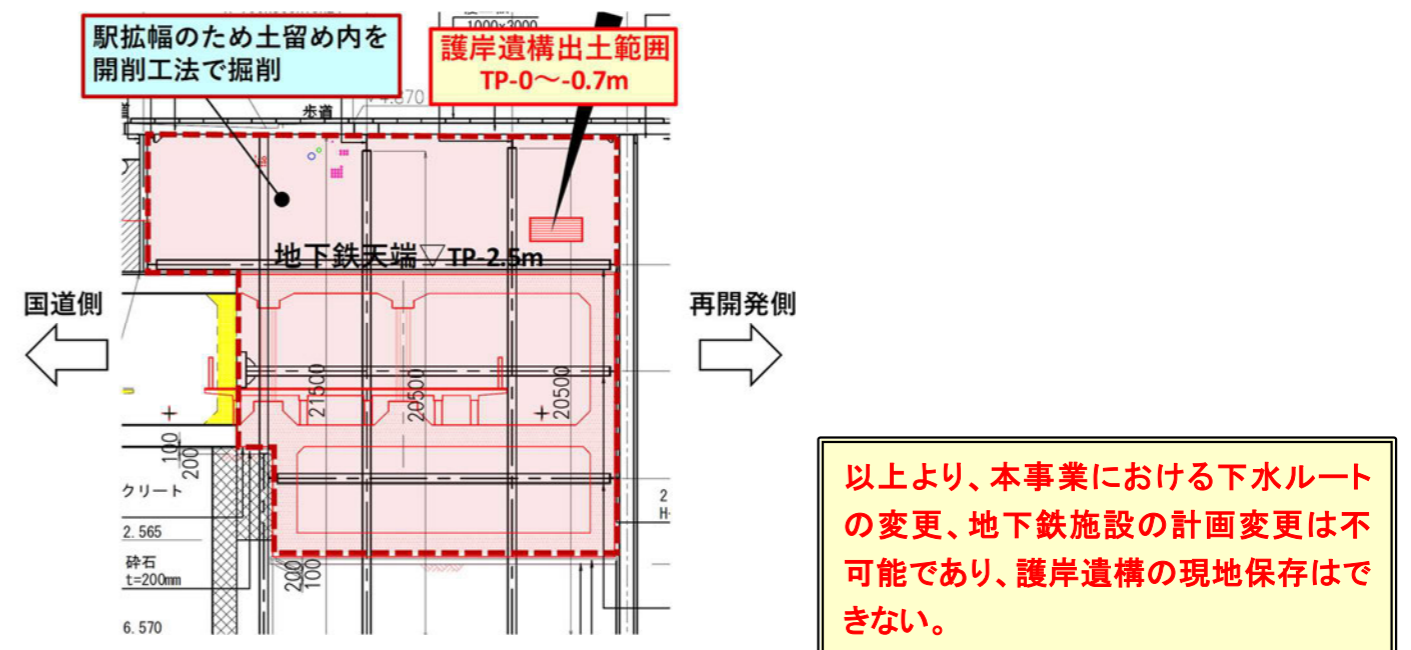


図-5 護岸遺構と地下鉄施設との位置関係(断面図)

§ 3. 下水切替工事の進捗状況(令和5年3月上旬)

